

日銀 – 金融緩和を強化、ETF買い入れ額を増額 –

＜金融緩和強化を決定＞

日銀は7月28～29日に金融政策決定会合を行い、ETF買い入れ額の増額など金融緩和の強化を決定しました。主な決定内容は以下の通りです。

- ・ETF買い入れ額の増額
年間3.3兆円から6兆円へ増額
- ・企業・金融機関の外貨資金調達環境の安定のための措置
 - ①成長支援資金供給・米ドル特則の拡大
120億米ドル⇒240億米ドル
 - ②米ドル資金供給オペの担保となる国債の貸付制度の新設

量的・質的緩和の規模とマイナス金利（▲0.1%）については変更されませんでした。

日銀は次回の金融政策決定会合において、これまでの金融緩和策のもとでの経済・物価動向や政策効果について総括的な検証を行うとしています。

＜円高・株安へ＞

市場ではマイナス金利の深堀りなどさらに踏み込んだ金融緩和を期待していたことから、政策発表直後は円高米ドル安が進行し、一時102円台に突入しました。15時現在では1米ドル=103.60円前後で推移しています。

また、日経平均は一時、前日比▲300円以上下落しましたが、ETF買い入れ額の増額は株式市場にとってはプラスと受け取られ、上昇に転じました。29日の日経平均株価は前日比+92.43円上昇し、16,569.27円となっています。

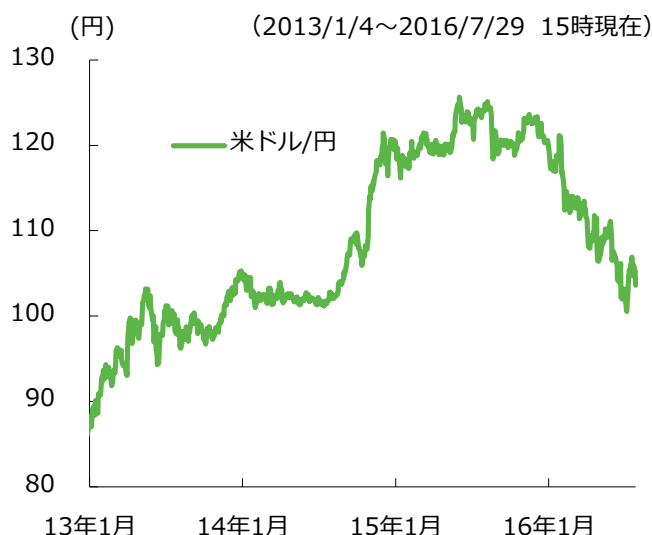
＜今後の見通し＞

日銀による今回の決定内容は市場の期待値を下回るものでしたが、次回の会合で政策効果について検証を行うとしており、今後も追加緩和期待は継続すると予想されます。

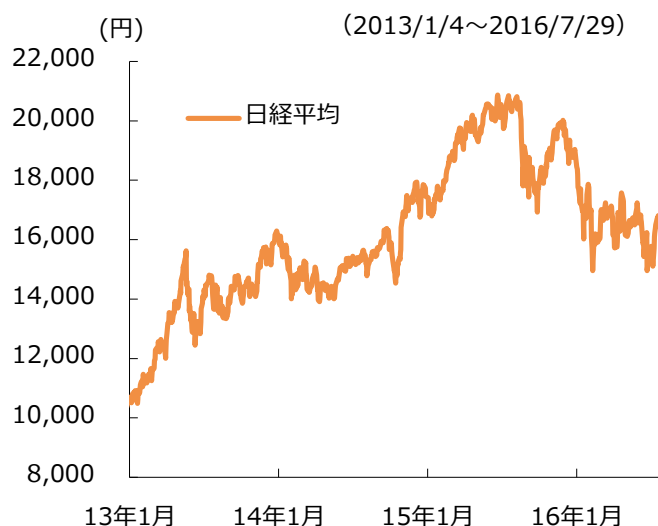
一方、米国では先日のFOMCでは利上げが見送られたものの、労働市場の改善や景気回復から今後の利上げ路線に変更はないと見込まれます。

今後は日米の金融政策の方向性の違いから米ドル高円安傾向になると見込まれます。

＜米ドル/円の推移＞



＜日経平均の推移＞



出所：Bloomberg